

文部科学省

平成23年5月13日

今後の医学部定員のあり方等に関する検討会

# 医師養成増は 医療崩壊を救うか

---

小川 彰

岩手医科大学学長

全国医学部長

病院長会議 顧問

# 今日のお話

- 1. 医師養成増減の現状**
- 2. 教員増による病院医療崩壊の危惧**
- 3. 国民の求める医師養成になるか**
- 4. 世界一の医師数時代の到来**
- 5. 日本の医療は世界一**
- 6. 適正養成の仕組みの欠如**

# 医学部医学科における入学定員の推移

		定員数
昭和40年頃		3500
昭和56-59年	医学部新設により	最大 8280

閣議決定によっても8%の削減しか達成できなかった

平成15-19年	抑制後定員	7625
----------	-------	------

平成20年	対策後定員	7793
平成21年		8486
平成22年		8846
平成23年		8923

1298名の定員増: 14大学新設と同義

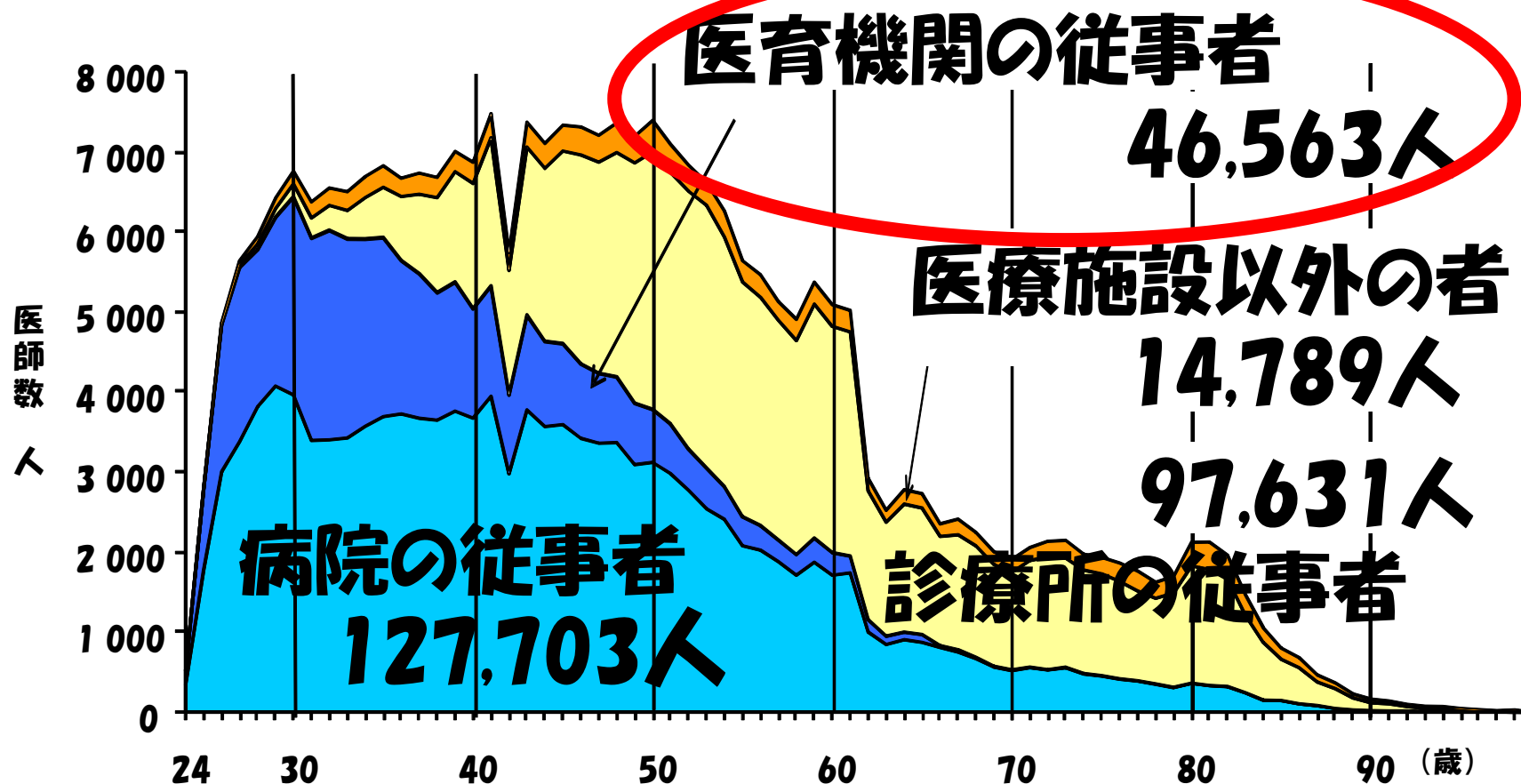
# 今日のお話

1. 医師養成増減の現状
2. 教員増による病院医療崩壊の危惧
3. 国民の求める医師養成になるか
4. 世界一の医師数時代の到来
5. 日本の医療は世界一
6. 適正養成の仕組みの欠如

# 施設の種別に応じた医師数

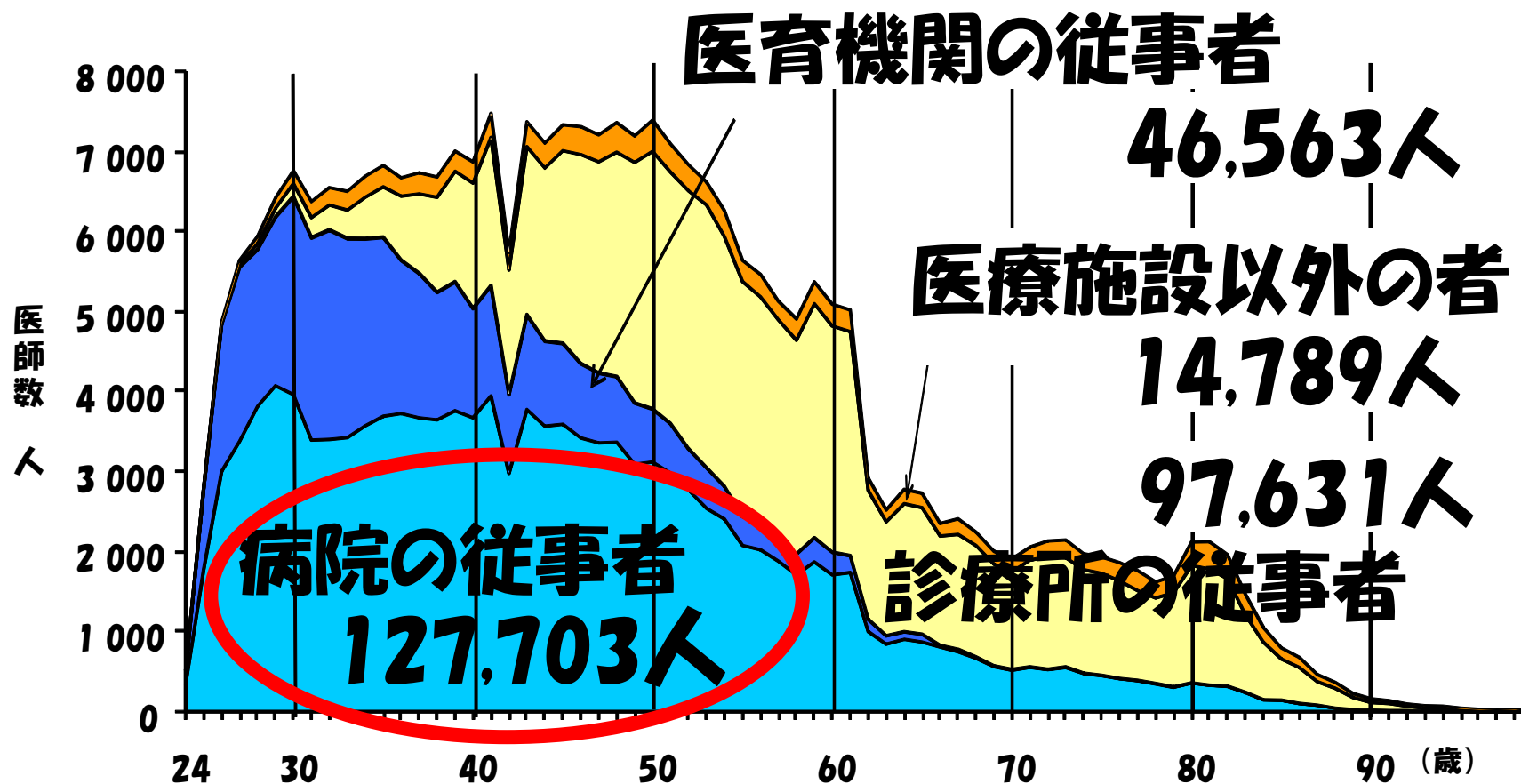
厚生労働省3師調査統計表6  
H20.12.31現在最新データ

**総医師数286699人**



# 施設の種別にみた医師数

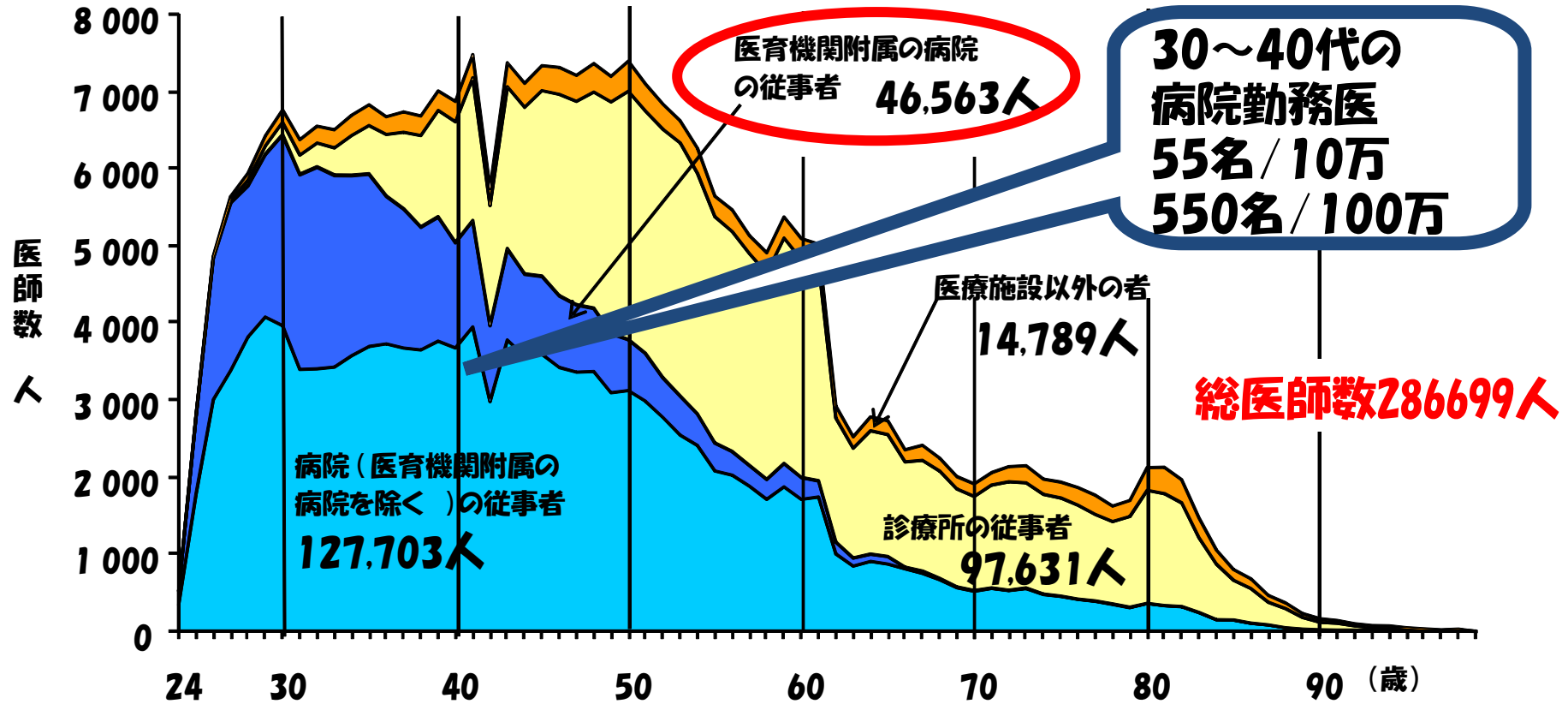
厚生労働省3師調査統計表6  
H20.12.31現在最新データ



**教員を増員するのであれば  
病院従事者を充てる以外ない。**

# 施設の種別に応じた医師数

厚生労働省3師調査統計表6(参考1)  
H20.12.31現在最新データ



**医育機関の教員(医師)約4万6千名**  
**全国の医学生(6学年分)約4万5千名**  
**= 医学生1名に1名の臨床教員を要す**

**1298名の定員増**

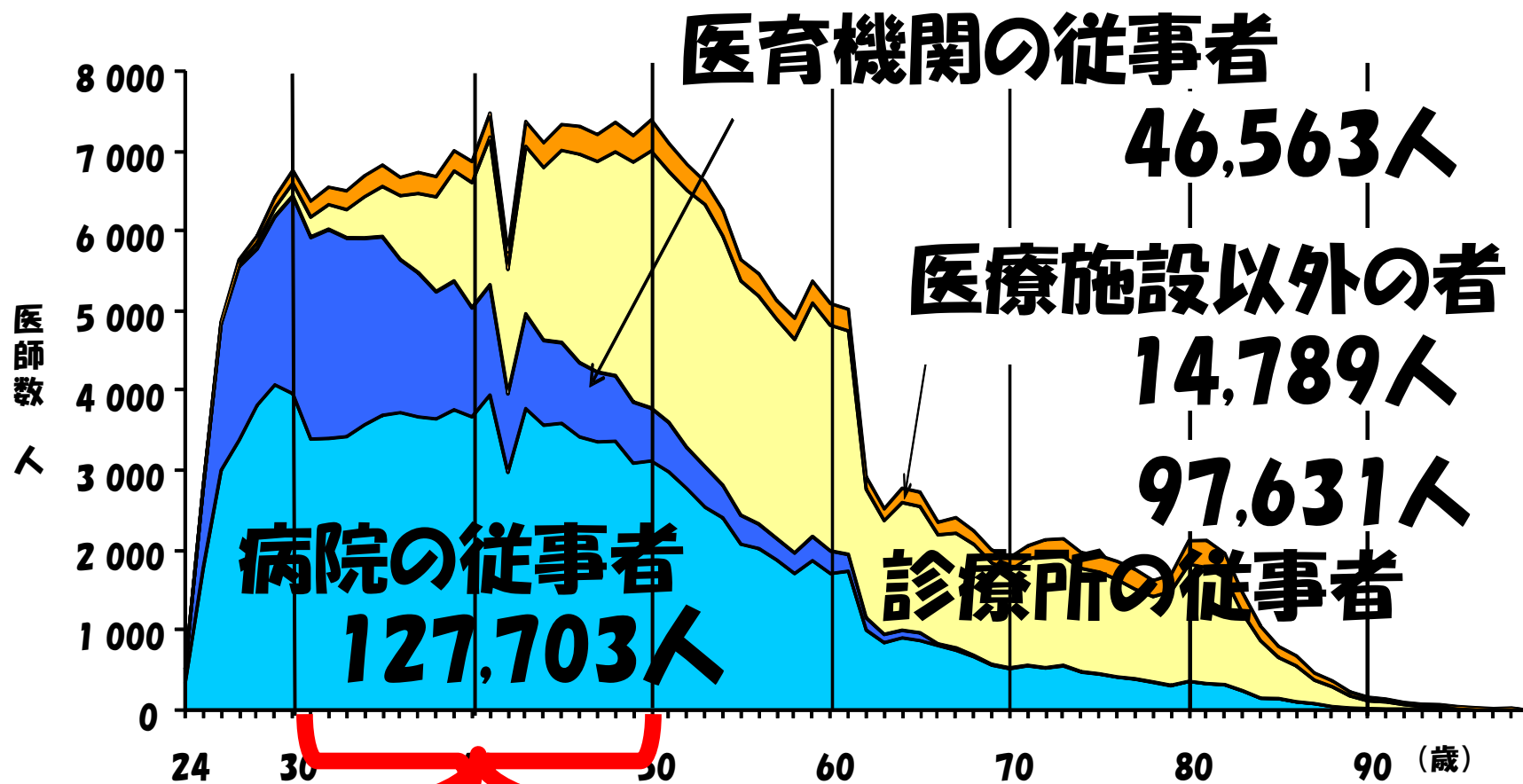
1298 × 6学年

= **7788名**

教育レベルの維持には  
いづれ約8000名近い  
教員増が必要

# 施設の種別に応じた医師数

厚生労働省3師調査統計表6  
H20.12.31現在最新データ



教員候補者は30~40代の病院勤務医  
=71,317名; 必要教員8,000名 / 71,317名 = 11%



# 医学教育のための教員増は 病院勤務医から充当せざるを得ない

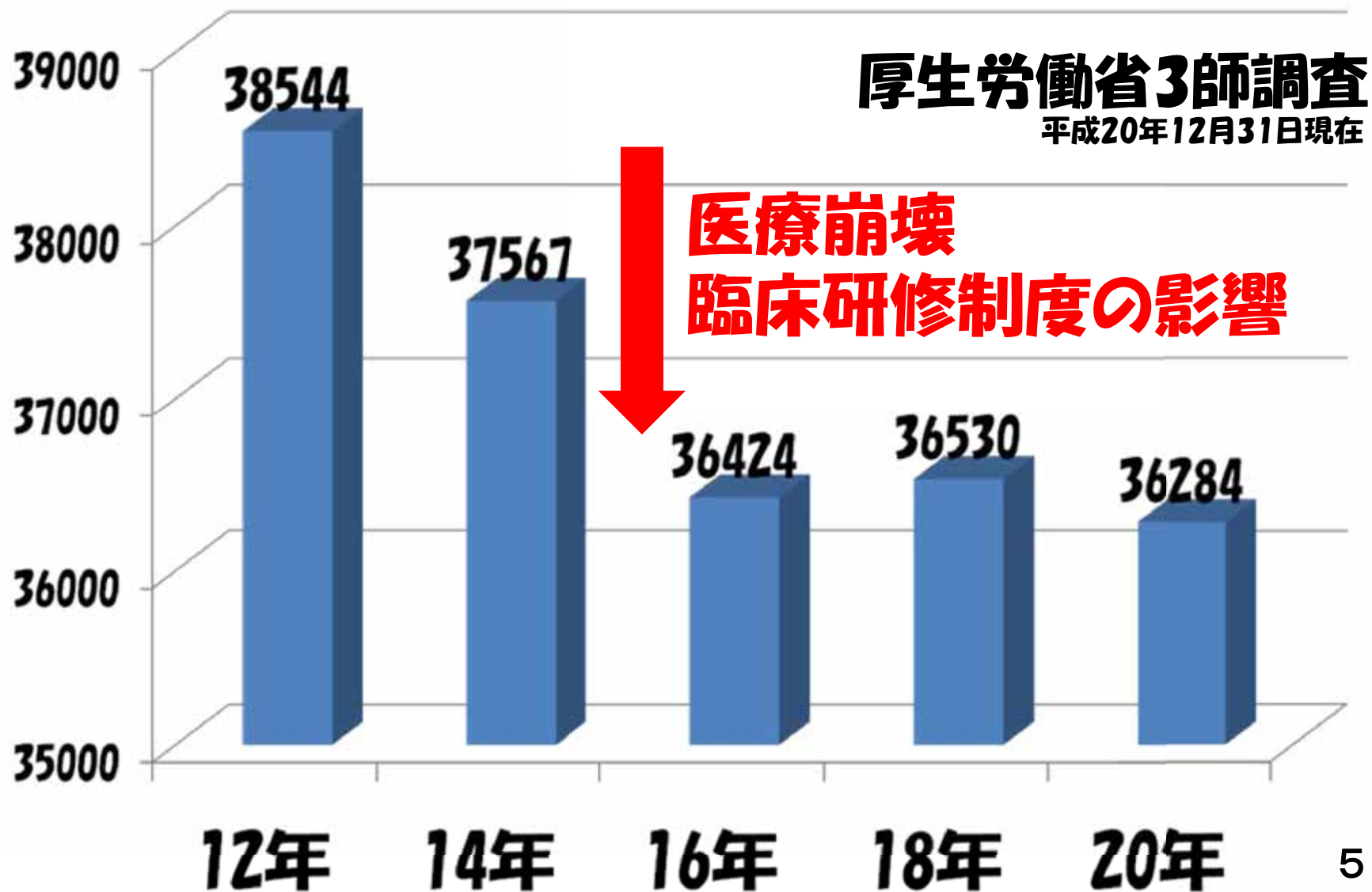
---

- ・ 現在の定員増でも8,000名の教員が必要
- ・ 3-40才代の病院勤務医は71,317名
- ・  $8,000\text{名} / 71,317\text{名} = 11\%$
- ・ 地域病院の中核をなす3-40代の

**病院勤務医の**

**1割強がいなくなる**

# 30才代病院勤務医



# 定員増は**医療崩壊**を 食い止めるために行うはず

---

- ・ 医学教育は手がかかるようになった。定員増に見合った**教員増**が必要
- ・ 教員候補者は**3-40才代の病院勤務医**しかない
- ・ 地域病院の中核をなす**3-40代の病院勤務医**を病院から抜けば
- ・ **地域医療の崩壊は加速する**

## 今日のお話

1. 医師養成増減の現状
2. 教員増による病院医療崩壊の危惧
3. 国民の求める医師養成になるか
4. 世界一の医師数時代の到来
5. 日本の医療は世界一
6. 適正養成の仕組みの欠如

# 1960年

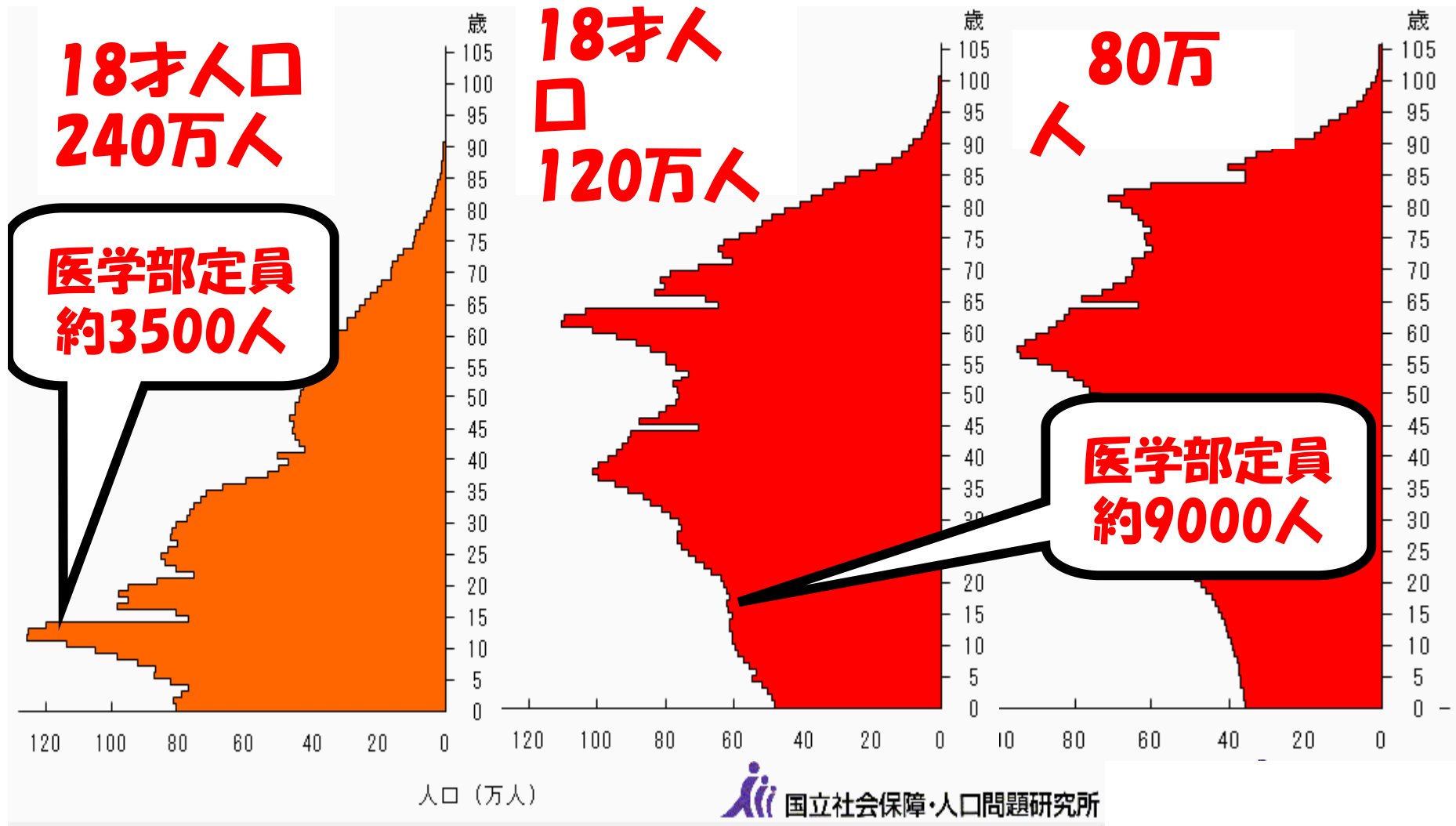
690人に一人

# 2010年

135人に一人

# 2030年

90人に一人



# 大学をめぐる諸問題

---

大学全入時代：学力低下  
ゆとりに教育世代の入学  
Study skillsの未成熟  
精神的・社会的未熟な学生

---

18才人口の激減の中、医学部入学は  
7倍の広き門に  
国民の期待する有能な医師養成の危機

# 今日のお話

1. 医師養成増減の現状
2. 教員増による病院医療崩壊の危惧
3. 国民の求める医師養成になるか
4. 世界一の医師数時代の到来
5. 日本の医療は世界一
6. 適正養成の仕組みの欠如

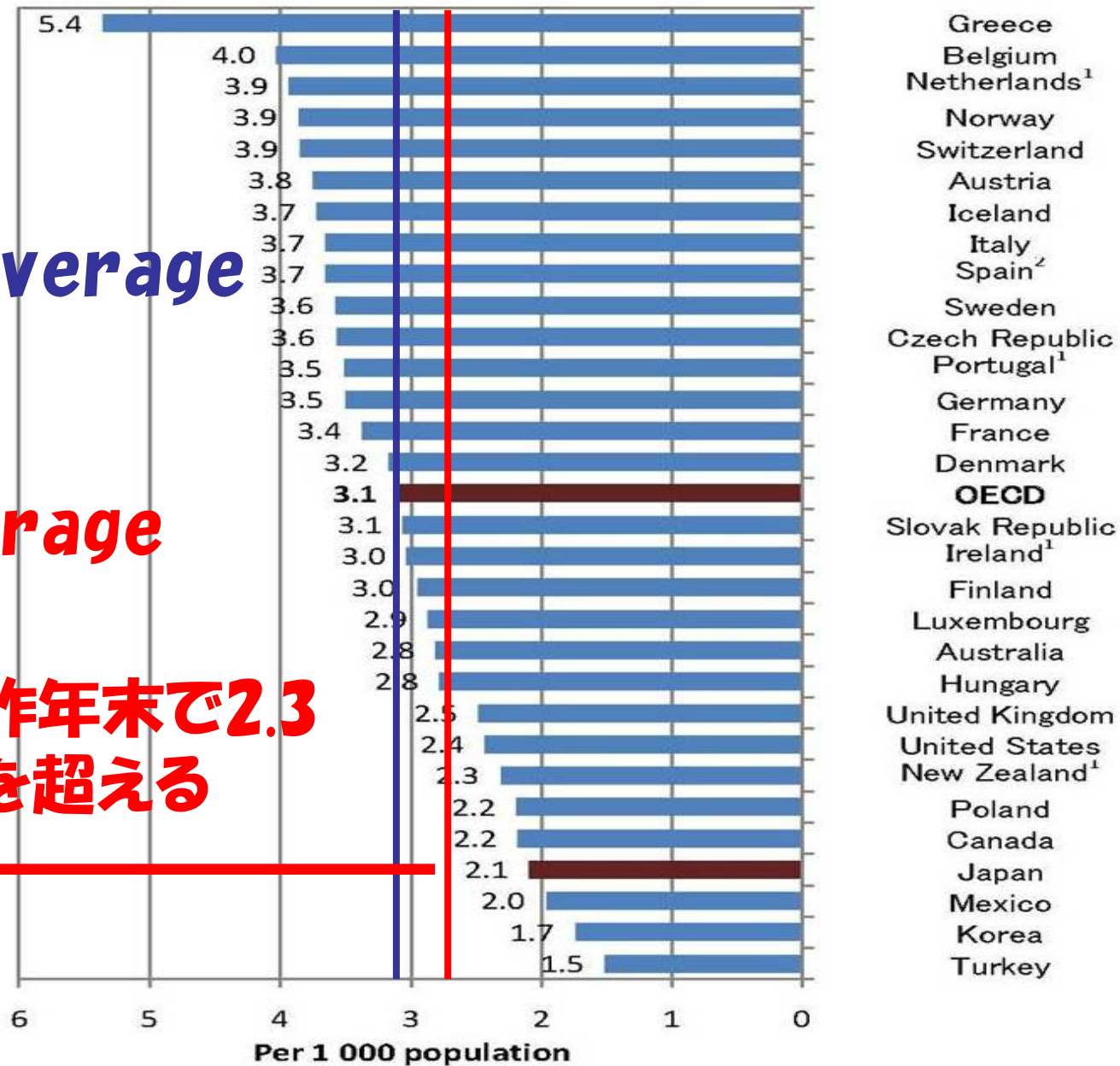
# OECD30カ国の医師数 人口1000人対 (2007年)

**OECD Average  
(3.1)**

**G7 Average  
(2.8)**

**昨年末で2.3  
を超える**

**27  
位**

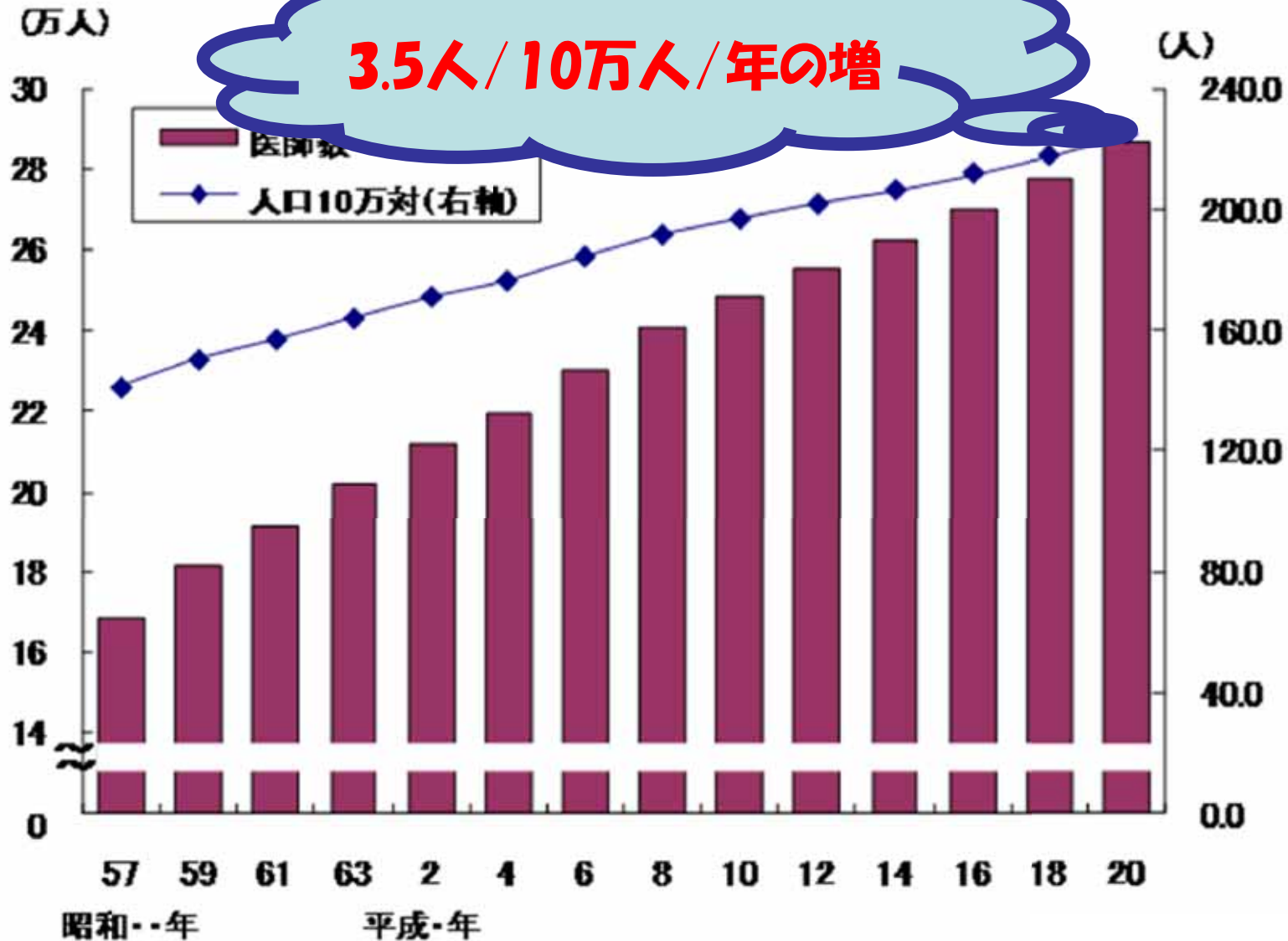




# 医師数の年次推移

厚生労働省3師調査

平成20年12月31日現在



# 医師数の年次推移

定員増の影響を受けて  
いない段階の卒業生でも

**3.5人/10万人/年の増**

各年12月31日現在

			医師数	増減率	人口10万対
			(人)	(%)	(人)
昭和	57年	(1982)	167 952		141.5
	59	(84)	181 101	7.8	150.6
	61	(86)	191 346	5.7	157.3
	63	(88)	201 658	5.4	164.2
平成	2年	(90)	211 797	5.0	171.3
	4	(92)	219 704	3.7	176.5
	6	(94)	230 519	4.9	184.4
	8	(96)	240 908	4.5	191.4
	10	(98)	248 611	3.2	196.6
	12	(2000)	255 792	2.9	201.5
	14	(02)	262 687	2.7	206.1
	16	(04)	270 371	2.9	211.7
	18	(06)	277 927	2.8	217.5
	20	(08)	286 699	3.2	224.5

# 目標に達した後の医師養成

定員増効果が出る以前の現在でも  
約4000人ずつ医師は増えている

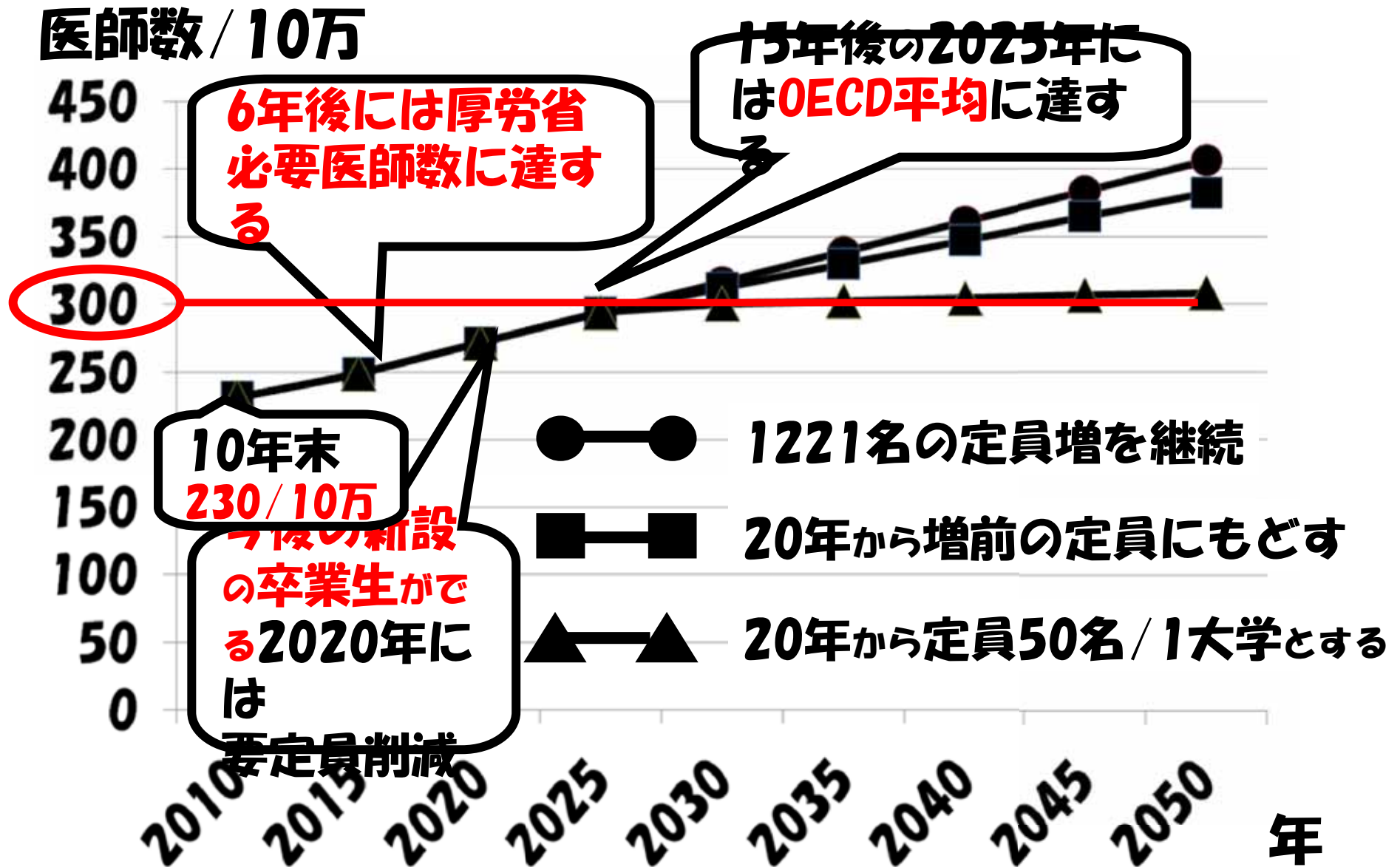
一方、医籍から抜けてゆく医師  
は年約3500人

医師数目標が確保された後は約  
4000人弱の医師養成で均衡に

1大学50名定員の時代が目の前に

# 今後の医師数予測

厚生労働省3師調査から



## 今日のお話

1. 医師養成増減の現状
2. 教員増による病院医療崩壊の危惧
3. 国民の求める医師養成になるか
4. 世界一の医師数時代の到来
5. 日本の医療は世界一
6. 適正養成の仕組みの欠如

# 日本の医療 は世界一

WHO

OECD health data  
Canada



## 脳梗塞入院30日 以内の院内致死率



## 結腸直腸がん5年 相対生存率



## Canada Outranks U.S. in Healthcare Report Card

平均寿命、死亡率、がん、循環器系疾患、呼吸器疾患、障害、乳児死亡率など11の基準で医療を総合評価

1 Japan	A	9 Australia	B
2 Switzerland	A	10 Canada	B
3 Italy	A	11 Netherlands	C
4 Norway	A	12 Austria	C
5 Sweden	B	13 Ireland	C
6 France	B	14 United Kingdom	D
7 Finland	B	15 Denmark	D
8 Germany	B	16 United States	D

Conference Board of Canada 2009

**現在、世界一の医療レベルと評価  
されている日本の医学・医療を  
誤った方向に導かないで頂きたい**

---

**まして、この状況を壊す事は国民  
医療・福祉の後退をもたらします**

## 今日のお話

1. 医師養成増減の現状
2. 教員増による病院医療崩壊の危惧
3. 国民の求める医師養成になるか
4. 世界一の医師数時代の到来
5. 日本の医療は世界一
6. 適正養成の仕組みの欠如



# **大学設置基準上、**

- 1. 認可ルール(外形基準)しかない**
- 2. 基準にあった申請は拒否できない**
- 3. 定員削減のルールがない**
- 4. 適正な養成数への変更不可**

# 近々の社会的問題は

1. 国民が求めているのは単なる**数合わせ**ではなく**有能な医師養成**である。
2. それには定員増に応じた**相当の教員が必要**。
3. 教員増には、地域医療の中核を担っている**有能な病院勤務医を充てる**しかない。
4. 地方の現状は病院勤務医が1名でも欠ければ**ドミノ式に医師が欠け病院は崩壊**する。
5. 従って、**医療崩壊を食い止めるはずの医師養成増が、医療崩壊を増悪**する。

# 長期的問題:

医師養成増を急激に押し進めると、

1. 早急に**世界最多の医師数にまで到達**する。
2. すなわち、**圧倒的医師過剰状態に到達**する。
3. 医師養成増のための環境整備には、**膨大な先行投資が必要**である。
4. 一度増やした学部や**定員の削減は大学設置基準上極めて難しい**。
5. **設置基準上、定員削減のルールがない**。適正な養成数への変更不可

**医学部定員増・新設を議論する時代は終わった**

---

**医師の**

**地域間・診療科間偏在**

**是正システムを議論すべき**